

カチオン水系1液エポキシ万能シーラー

F ☆ ☆ ☆ ☆

ダイヤ ワイドシーラー

ダイヤ ワイドシーラー ホワイト

JIS K 5663 合成樹脂エマルジョンシーラー

ダイヤワイドシーラーが塗装工事を改革します。

地球環境の維持と改善が叫ばれている現在、都市部や住宅密集地域での新築・改修工事にも、大気汚染・健康障害・引火など周辺環境への配慮と安全管理が要求されています。

ダイヤワイドシーラーは使いやすい水系一液のエポキシシーラーで、火気・溶剤臭の心配がなく、浸透性にすぐれていますので、あらゆる下地や旧塗膜に適応、新築はもちろん、改修工事の完全水系仕様を、溶剤系同等の性能で可能にします。

特長

今、水系シーラーが変わる!

水系一液

取扱いが簡単な水系一液タイプですので、火気・溶剤臭の心配がなく、施工・管理が容易な上、安定した性能が得られます。更にヤニ汚れや、シミに優れた効果を発揮します。

高浸透
固着性

浸透性にすぐれ、脆弱な下地に浸透して表面を固化するだけでなく、硬くて緻密な下地にも良好な浸透性を発揮します。

優れた
下地適性

弾性系を含めて各種旧塗膜との密着性にすぐれていますので、改修工事にも最適です。

幅広い
仕上適性

汎用の複層塗材のみならず、弾性塗材の下塗材としても使用できます。

ダイヤ ワイドシーラー/ワイドシーラーホワイト

用途

新築から改修までワイドに対応。

新築下地：コンクリート、PC板、GRC板、ケイカル板、押出し成型板など
 改修旧塗膜：弾性系仕上材、吹付けタイル、スタッコ、リシン、アクリルエナメル、
 ウレタンエナメル、エマルジョン塗料、塩化ビニルエナメルなど
 適合仕上材：複層弾性、単層弾性、各種吹付けタイル、各種水系上塗材など

標準施工工程

●新築・改装一般施工

工程	材料名	調査割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具
					工程内	工程間	
1 下地調整	新築下地：素地は放置して十分に乾燥させてください。汚れや付着物はブラシ、研磨紙、布等を用いて除去し、必要に応じ水洗いをしてください。 改修旧下地：脆弱な部分または浮きや剥離部分は充分除去してください。コンクリートの欠けやひび割れ、鉄筋発錆による損傷はきちんと補修してください。						
2 下塗り	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg	0.1~0.2kg/m ² 75~150m ² /缶	1	—	2時間以上	刷毛、エアレス 中毛ローラー
2 下塗り	ダイヤワイドシーラーホワイト 清水	15kg 1.5~4.5リットル	0.1~0.2kg/m ² 75~150m ² /缶	1	—	2時間以上	刷毛、エアレス 中毛ローラー

※所要量は1回塗りの場合の標準値であり、下地の種類や状態により増減します。

包装単位

ダイヤワイドシーラー 15kg缶
 ダイヤワイドシーラーホワイト 15kg缶

施工・管理上の注意点

【塗装面の調整(新設)】

- ①素地に付着している塵、汚れ、油類、リタス等を完全に除去して下さい。
- ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下(pH10以下)になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
- ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
- ④PCパネル、現場打ちコンクリートの場合

- ①豆板、木コ、被覆箇所、不陸などは、セメントフィラー、セメンジャス#2000、セメンジャス#2500、リマモル#70等の下地調整材を使用し、補修して平滑して下さい。
- ②表面が緻密でレタンス層がある場合は、レタンスを除去し、ダイヤガンシーラー又は、ダイヤシーラーエポをご使用して下さい。

【塗装面の調整(新設・改修共通)】

- ①屋上防水、自地排水管などの水の浸透が懸念される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
- ②使用シリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、フリド等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。

【塗装面の調整(改修)】

- ①各現場の改修工事仕様に基つき劣化部分の補修や既存塗膜の処理(ケレン、清掃、高圧水洗浄)などを行なって下さい。
- ②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
- ③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧水洗浄で除去して下さい。

【材料の保管・管理】

- ①開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
- ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。

【施工】

- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨(雪)養生をして下さい。
- ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の性能が発現できませんので注意して下さい。
- ③材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。
- ④乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。
- ⑤乾燥時間は、温度、湿度、および風等により発現を生じます。
- ⑥コンフレックスを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
- ⑦下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、剥離等の生じる原因となります。
- ⑧施工にあたっては、同一方法で、入り隅、隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎはムラの原因になります。

- ⑨施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化が発生し、壁面に残る場合があります。
- ⑩本施工に入る前に試験塗りをし、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりムラにならないよう確認して下さい。
- ⑪希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上らないことがあります。
- ⑫常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
- ⑬安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- ⑭一度に厚く塗ると発泡が生じるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
- ⑮塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
- ⑯フッ素や無機系などの難接着塗料が塗られている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄りの営業所へご相談下さい。
- ⑰可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
- ⑱使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置すると硬化して洗浄することが難しくなります。
- ⑲乾燥時間は、温度、湿度および、風等により差異が生じます。
- ⑳カチオン形塗料ですので、多種塗料との混合はできません。刷毛およびローラーも多種塗料と併用して使用しないで下さい。
- ㉑必ず缶等はプラスチック容器を使用して下さい。金属類はサビが発生します。
- 【安全衛生上の注意】
- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
- ②取扱後は、手洗い及びうがいを行って下さい。
- ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
- ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑧中身を使い切った後は、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
- ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
- ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- 【その他】
- ①その他、詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせ下さい。
- ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認下さい。
- ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート(SDS)をご確認下さい。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

(23.4月現在) 23.04.1.000 SJ